

事業名称	女子高校生 SDG s サミット 2022（仮）
団体名・代表者	特定非営利活動法人姫路コンベンションサポート 理事長 石井恵美
協働の相手方	地方創生室

目 的	<p>男性と女性が同じステージで輝きあえる男女平等社会を実現するため、女子高生の視点で問題提起し、考えるイベントを実施し、以下を目的として実施する。</p> <p>①女性が輝く社会の実現の重要性を理解すること ②自ら課題を見つけ、学び、考える力を養い、お互いに理解し交流を深めること ③自分らしく自由に輝く夢の実現へ踏み出すことをサポートし、社会に貢献できる人材を育成すること</p>
内 容	<p>男性と女性が同じステージで輝きあえる男女平等社会を実現するため、女子高生の視点で問題提起し、考えるイベントを実施する。趣旨に賛同する女子高校生を募集し実行委員会を結成、イベント実施に向けてワークショップを行う。</p> <p>①実行委員会結成 サミットの趣旨に賛同し、実行委員として活動していただける市内在住または在学の高校生を公募、8名の応募があり実行委員会を結成する。 （実行委員の在籍校）姫路西高等学校、飾西高等学校、賢明女子学院高等学校 月1回程度の実行委員会を開催し、主にサミットのプログラム内容の検討を行った。そのほか参加者集客のため、ラジオ出演や取材対応など広報活動を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>②事前ワークショップ 当日参加予定の高校生を対象にオンラインで実施した。サミットの参加しようと思った動機やトークテーマの選択理由、日頃感じている男女不平等などから、当日より深めたい話題について意見交換した。</p> <p>③「女子高校生 SDGs サミット 2023 in HIMEJI～誰もが主人公になれる世の中へ～」開催 日 時：2023年3月12日（日）13:00～16:30 場 所：アクリエひめじ大会議室 408号室 参加数：高校生18名 一般17名 実行委員8名 合計42名</p> <p>私たちの意識や日々の生活の中で、なかなか気づきにくいジェンダーバイアスについて高校生が身近にあるテーマを6つ取り上げた。「日頃から感じていること、問題・課題に思っていること」「その原因は何か」「解消する方法、共存する方法」など、テーマごとにグループでディスカッションを行った。参加者は高校生だけでなく経験豊富な大人の参加もあり、世代間での意識の違いを感じながらも、今後どうあるべきか話合った。男女平等社会の実現に向け、参加者一人ひとりがどのような働きかけをしていくか、目標も発表し終了した。 ※トークテーマは以下の通り。 祭り・伝統文化／家庭・家族／学校生活／美容・ファッション／スポーツ／職業 またサミットと合わせて、フードドライブ及び姫路近隣高校及び団体の SDG s 活動紹介展示・発表も実施した。 （参加団体）高校生エシカル推進委員会 賢明女子学院 BeLeaders 東洋大付属姫路高等学校地域活性部</p>

事業経過	<p>(令和4年)</p> <p>7月末～ 実行委員会メンバー募集開始</p> <p>9月25日 第1回 実行委員会開催</p> <p>7回会議を実施。</p> <p>また令和5年2月～3月に計12回の事前ワークショップを参加予定者に向けて開催する。</p>
事業の効果	<p>参加高校生の男女比が1：1であったことや、学生以外の方にも参加いただいたことで、異なる立場の人同士が語り合い、互いの意見を知ること、多様な生き方、考え方を共有することができた。話し合いを通じて、カテゴリーにとらわれることなく「人間として」互いに思いやりを持つこと、お互いを認め合うことが男女平等社会あるいは生きやすい世の中につながることに気づけたことは、高校生らが描く将来像にも影響を与えたと考える。</p>
今後の展望	<p>違和感を感じるのが気づきへの一歩であり、これからもジェンダーについて考える機会を作りたい。</p>

【実施団体の事業総括・感想等】

- ・学校行事は学校ごとに異なるため、部活なども含め実行委員メンバーのスケジュール管理が難しく、当日までの準備には課題が多かった。
- ・オンラインの活用は当初想定していなかったが、遠方からの参加希望があったことや、高校生らの時間的都合により急遽活用することとした。オンライン会議には限界があるものの、実行委員会開催や遠方からでも参加しやすいように、オンラインの活用を早目に決定すべきだった。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

市内高校生をターゲットとした当事業は、姫路市 SDGs 未来都市計画における「グローバル人材の育成事業」に資するものであり、所管課としては、今後同様の事業を実施する際は、若者の将来的な定住（＝市内での活躍）につながる内容にしていただくことで、より足並みが揃えられると考える。テーマとして選択された「ジェンダー」については、市のタウンミーティングのテーマが「まちづくり」総論に偏りがちな点を踏まえ、新たな機会の提供という意味で、非常に有意義である。

